

# ARTE コアプログラム 参加アーティスト一覧

(50音順)

## 【臨海エリア】

### GROUP

#### GROUP

GROUPは建築プロジェクトを通して、異なる専門性を持つ人々が仮設的かつ継続的に共同できる場の構築を目指し、設計・リサーチ・施工をする建築コレクティブ。

主な活動として、設計・施工「夢洲の庭」(大阪府、2025)、設計・運営「海老名芸術高速」(神奈川県、2021)、設計・施工「新宿ホワイトハウスの庭」(東京都、2021)、企画・編集「ノーツ 第一号 庭」(NOTES EDITION、2021)、設計「EASTEAST\_TOKYO」(アートフェア会場構成、2023)、グループ展「Involvement / Rain / Water Passage」(金沢21世紀美術館DXP展、2023)、個展「手入れ / Repair」(WHITEHOUSE、2021)など。

<https://www.groupatelier.jp/>



#### 齋藤 精一

建築デザインをコロンビア大学建築学科で学び、2006年、株式会社ライゾマティクス（現：株式会社アブストラクトエンジン）を設立。2020年、「CREATIVE ACTION」をテーマに、産官学を越境した地域デザインや都市開発、アートプロジェクトを手がけるデザインコレクティブ「パノラマティクス」を結成。2023-25年度 グッドデザイン賞審査委員長。2024年- Roof Park Project 共創プラットフォーム クリエイティブコンダクター。

<https://panoramatik.com/>



#### 鈴木 康広

1979年静岡県生まれ。日常の見慣れた事象に新鮮な切り口を与え、物事の新たな関係性を提示する活動を続けている。代表的な作品に、《ファスナーの船》、《まばたきの葉》、《空気の人》がある。主な個展に水戸芸術館「近所の地球」(2014)、箱根 彫刻の森美術館「始まりの庭」(2017)など。近年は、《はじまりの果実》(十和田市現代美術館蔵)、《無限大をひらく》(BLUE FRONT SHIBAURA)をはじめ、公共空間の常設展示も多数手掛けている。

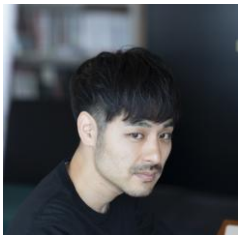
<https://www.mabataki.com/>



#### 永山 祐子

青木淳建築計画事務所を経て2002年永山祐子建築設計設立。主な仕事に「豊島横尾館」「ドバイ国際博覧会日本館」「東急歌舞伎町タワー」、大阪・関西万博「ウーマンズ パビリオン」と「パナソニックグループパビリオン『ノモの国』」など。現在「Torch Tower」などの計画が進行中。著書に『建築から物語を紡ぐ』(グラフィック社)、『建築というきっかけ』(集英社新書)がある。

<https://www.yukonagayama.co.jp>



## 湯浅良介

1982年東京都生まれ。東京藝術大学大学院修士課程修了。内藤廣建築設計事務所を経て、2019年にOffice Yuasaを主宰。2024年より多摩美術大学准教授。主な作品に「FLASH」(2021)、「となりはランデヴー」(2022)、「波」(2022)、「LIGHTS」(2024)など。主な著作に『HOUSEPLAYING No.01 VIDEO』(OFFICE YUASA)、『PATH』(盆地Edition)など。主な個展に「POLE STAR」(un、2022)、「BLINK」(same gallery、2023)、「TEMPO++」(CoAK、2024)など。主な受賞歴にSDレビュー2023槇賞、住宅建築賞2024入賞など。武蔵野美術大学、東京科学大学非常勤講師。

<https://www.yuasaryosuke.com/>

## Rhizomatiks

Rhizomatiksは、変化し続ける環境の中で、表現がどのように生まれ、知覚され、経験されるのかを探る実践である。音、映像、空間、システムを通じて、人間と非人間、現実と生成、制御と偶然のあいだに生まれる経験をかたちにする。

<https://www.instagram.com/rhizomatiks/>

rhizomatiks

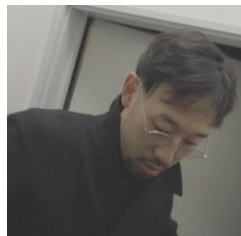
## 【日比谷・丸の内エリア】



## エキソニモ

赤岩やえと千房けん輔により1996年に結成されたアーティスト・デュオ。インターネット黎明期から活動を展開。デジタルとアナログ、物理空間と情報空間を横断し、ネットワーク社会の変容を批評性とユーモアで表現し続けている。アルス・エレクトロニカ「ゴールデン・ニカ」(2006年)、文化庁芸術選奨(2021年)受賞。世界30都市以上に波及したイベント「インターネットヤミ市」の主催など、アートの枠組みを拡張する活動も行なっている。

<https://exonemo.com/>



## 笹原 花音

1997年東京生まれ。現在東京を拠点に活動するアーティスト。普段から目にする日常のオブジェクトをデフォルメし、機能性を消失させることによって、空間や生活環境における構成の再解釈をオーディエンスへ与える作品を制作している。

<https://kaorusasahara.com>



## 鈴木 康広 (再掲)

1979年静岡県生まれ。日常の見慣れた事象に新鮮な切り口を与え、物事の新たな関係性を提示する活動を続けている。代表的な作品に、《ファスナーの船》、《まばたきの葉》、《空気の人》がある。主な個展に水戸芸術館「近所の地球」(2014)、箱根彫刻の森美術館「始まりの庭」(2017)など。近年は、《はじまりの果実》(十和田市現代美術館蔵)、《無限大をひらく》(BLUE FRONT SHIBAURA)をはじめ、公共空間の常設展示も多数手掛けている。

<https://www.mabataki.com/>



## 藤倉 麻子

1992年埼玉県生まれ、東京都在住。都市・郊外を横断するインフラと、それに付随する風景に着目し、主に3DCGアニメーションによる作品を制作。近年は、埋立地の物流のダイナミズムと、都市に現れる庭をテーマに空間表現を展開している。主な展覧会に「マシン・ラブ：ビデオゲーム、AIと現代アート」(森美術館、2025)、「第19回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展」日本館(2025)など。

<https://www.afujikura.com/>



## 西澤 徹夫

1974年京都府生まれ／1998年東京藝術大学美術学部建築学科卒業／2000年同大学美術研究科建築専攻修士過程修了／2000-05年青木淳建築計画事務所／2007年西澤徹夫建築事務所／2023年～京都工芸繊維大学特任教授／2021年「京都市美術館」（共同設計：青木淳、『新建築』2005）で建築学会賞（作品）受賞、第62回（2020年度）毎日芸術賞受賞／2023年第74回芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞

<https://tezzonishizawa.com/>



## 森 純平

東京藝術大学建築科大学院修了。建築から時間を考え、舞台美術、展示、まちづくり等、状況を生み出す現場に身を置き続ける。2013年松戸にてアーティスト・イン・レジデンス「PARADISE AIR」を設立し700組以上の滞在を支援。主なプロジェクトに「八戸市新美術館」共同設計、「有楽町アートアーバニズムYAU」など。

## magma

杉山純と宮澤謙一によるアーティストユニット。

廃材や樹脂、電動器具などを組み合わせ創りだす独自の世界観で、作品制作にとどまらず家具やプロダクト、空間演出ディレクション・制作まで幅広く手がける。

どこか懐かしさを覚えるアナログ感とクレイジーな色彩が融合した作品群は、国内外から注目を集めている。

<https://www.instagram.com/magma.jp>



## 【代々木・渋谷エリア】



## ALTEMY

ALTEMY（代表：建築家 津川恵理）は、場所の可能性を拡張する一級建築士事務所／建築デザインスタジオです。建築設計、ランドスケープ、道路、モビリティ、テキスタイル開発など多岐にわたる領域を一つの「アーキテクチャ」として設計し、人の身体や感性と環境を接続し、社会に新たな豊かさを生み出します。主な受賞歴は、国土交通省都市景観大賞特別賞、土木学会デザイン賞優秀賞、東京藝術大学エメラルド賞など。

<https://www.alt-emy.com/>



## 東 弘一郎

1998年 東京都生まれ。卓越した金属加工の技術をもって主に人がかかわることで動く立体作品を制作している。代表作は、自転車を材料にした廻転する不在や、2023年に韓国ACCで披露された無限車輪など。近年は、アジアを中心に海外でも積極的にグループ展に参加し注目を集めている。

<https://koichiro-azuma.com/>



## 大巻 伸嗣

1971年 岐阜県生まれ。美術作家。「存在」とは何かをテーマに制作活動を展開する。環境や他者といった外界と、記憶や意識などの内界、その境界である身体の関係性を探り、三者の間で揺れ動く、曖昧で捉えどころのない「存在」に迫るための身体的時空間の創出を試みる。

近年の主な展覧会に、「SPRING わきあがる鼓動」(ポーラ美術館,2026)、「Noor Riyadh 2025」(リヤド市内/サウジアラビア)、「Open the Box 2025: Bloom of Light」(大館當代美術館/香港)、「Interface of Being 真空のゆらぎ」(国立新美術館,2023)など。パフォーマンス作品やパブリックアートも世界各地で手がける。令和5年度（第74回）芸術選奨文部科学大臣新人賞。

<https://www.shinjiohmaki.net/index.html>



## ガラーヂュ

建築・映像・演劇の専門領域をもつメンバーによって構成された建築集団。設立メンバーは小田切駿、瀬尾憲司、渡辺瑞帆。建築を「変化しつづける事象の一過程」と考え、空間にとどまらず時間も含めたデザイン活動を実践している。建築が利用される日常、ライフサイクル、歴史など、様々なスケールの時間を横断しながら思考し、映像、演劇、お祭り、フィールドワーク等を通じて建築表現の拡張を試みている。

<https://garagearchitects.com/>



## 島田 正道

島田正道は、鳥の羽ばたく姿や雨粒が波紋を広げる様子、風が稲穂に描く軌跡など、自然が生み出す儚い一瞬のきらめきを見つけて、光や音を用いた大型インスタレーションとして表現するアーティストです。作品は観客が驚きや喜びといった体験をできるインタラクティブ性を備えているのが特徴です。Amsterdam Light Festival、i Light Singaporeなど10カ国以上のライトフェスティバルで展示されています。

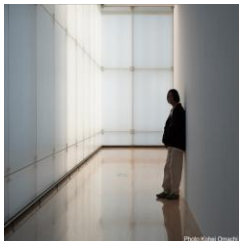
<https://www.instagram.com/masamichishimada/>



## 鈴木 康広 (再掲)

1979年静岡県生まれ。日常の見慣れた事象に新鮮な切り口を与え、物事の新たな関係性を提示する活動を続けている。代表的な作品に、《ファスナーの船》、《まばたきの葉》、《空気の人》がある。主な個展に水戸芸術館「近所の地球」（2014）、箱根 彫刻の森美術館「始まりの庭」（2017）など。近年は、《はじまりの果実》（十和田市現代美術館蔵）、《無限大をひらく》（BLUE FRONT SHIBAURA）をはじめ、公共空間の常設展示も多数手掛けている。

<https://www.mabataki.com/>



## 玉山 拓郎

1990年岐阜県生まれ。東京都在住。愛知県立芸術大学を経て、2015年に東京藝術大学大学院を修了。身近にあるイメージを参照して生み出された家具や日用品のようなオブジェクト、室内空間をモチーフに、鮮やかな照明や音響を組み合わせたインスタレーションを制作。最小限の介入によって空間を異化し、あるいは自然の理を強調することで、鑑賞者の身体感覚や知覚を揺さぶる。2025年、豊田市美術館にて個展「玉山拓郎：FLOOR」を開催。同展をはじめとするこれまでの活動が評価され、令和7年度（第76回）芸術選奨文部科学大臣新人賞（美術部門）を受賞。

<https://www.instagram.com/takurotamayama>



## 藤本 壮介

1971年北海道生まれ。東京大学工学部建築学科卒業後、2000年藤本壮介建築設計事務所を設立。2014年フランス・モンペリエ国際設計競技最優秀賞（ラルブル・プラン）に続き、2015、2017、2018年にもヨーロッパ各国の国際設計競技にて最優秀賞を受賞。国内では、2025年日本国際博覧会の会場デザインプロデューサーに従事。

<https://x.com/soufujimoto?s=20>



## 目 [mé]

アーティスト 荒神明香、ディレクター 南川憲二、インストーラー 増井宏文を中心とする現代アートチーム。連携を活かしたチーム・クリエイションによる制作活動を展開。「いつも我々の眼前にある」ただの世界" を、あらためて経験するような作品を試行する。

<https://mouthplustwo.me/>